



村小だより

平成29年6月13日発行

多くのお力添えに支えられて

校長 鈴木 正美

今年も、例年どおり玄関前を、つつじのピンクの花が彩りを添えています。その脇で、お茶の木も柔らかく艶々した新芽を、空に向かって伸ばしています。そして、玄関の両脇では、次の出番を紫陽花が待っています。時節は間もなく入梅。1学期も後半に入りました。

さて、この間、毎朝、ボランティアで子どもたちの登校を見守り、指導や声かけをしてくださる多くのながらパトロールの皆様のおかげで、子どもたちは大きな事故にあうこともなく、安全に登校することができています。誠にありがた、心から感謝申し上げます。

また、5月の連休明けから予定されていたマラソン大会(全校)、佐渡への修学旅行(6年)、ファミリーウォークラリー(1~4年)等の学校行事をはじめ、お城山探検(1年)、野菜の苗植え(2年)、お茶摘み体験(3年)、警察署、消防署の見学(4年)、田植え(5年)等々、校外での見学や体験活動も予定どおりに実施することができました。そして、どの学年の活動も十分に目的を達成することができたことと喜んでいるところです。これも、安全で円滑な運営のためにボランティアとして参加くださった保護者や地域の皆様、貴重な体験の場を提供してくださった皆様のおかげと、心から感謝申し上げます。

まだまだ「地域で学ぶ・地域に学ぶ・地域を学ぶ」様々な活動が計画されていますが、今後とも「村小っ子」の成長のために、お力添えをいただけますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<全校朝会:マラソン大会表彰後の校長講話>

代表の6年生に賞状を渡しましたが、各学年で6位までに入賞したみなさん、おめでとうございます。これまでの練習や大会本番でのがんばりの成果だと言えます。また、入賞できなかったみなさんも、よくがんばりました。全員が最後まであきらめず、ゴールできたことは、とても素晴らしいことです。

私は、みなさんが歯を食いしばって本気になって走る姿を見ているうちに、自分も何とか力になりたくなり、本気になって応援していました。私の周りにいたみなさんも本気になって応援していました。改めて、「本気な姿」って、「いいなあ」と思ったし、「応援したり、支えてあげたりしたくなるんだなあ」と思いました。

これからも、様々なことに「本気」を出して取り組んで、たくさんの応援、支えをもらいながら、「伸びる村小っ子」になってほしいと思っています。

お祭りも近付いてきました。乗ったり、曳いたり、見物したりと、かかわり方は色々だと思いますが、地域のために「村小っ子」の力や素晴らしさが発揮されるお祭りになってほしいと願っています。